

お客さま・地域の皆さまからの期待

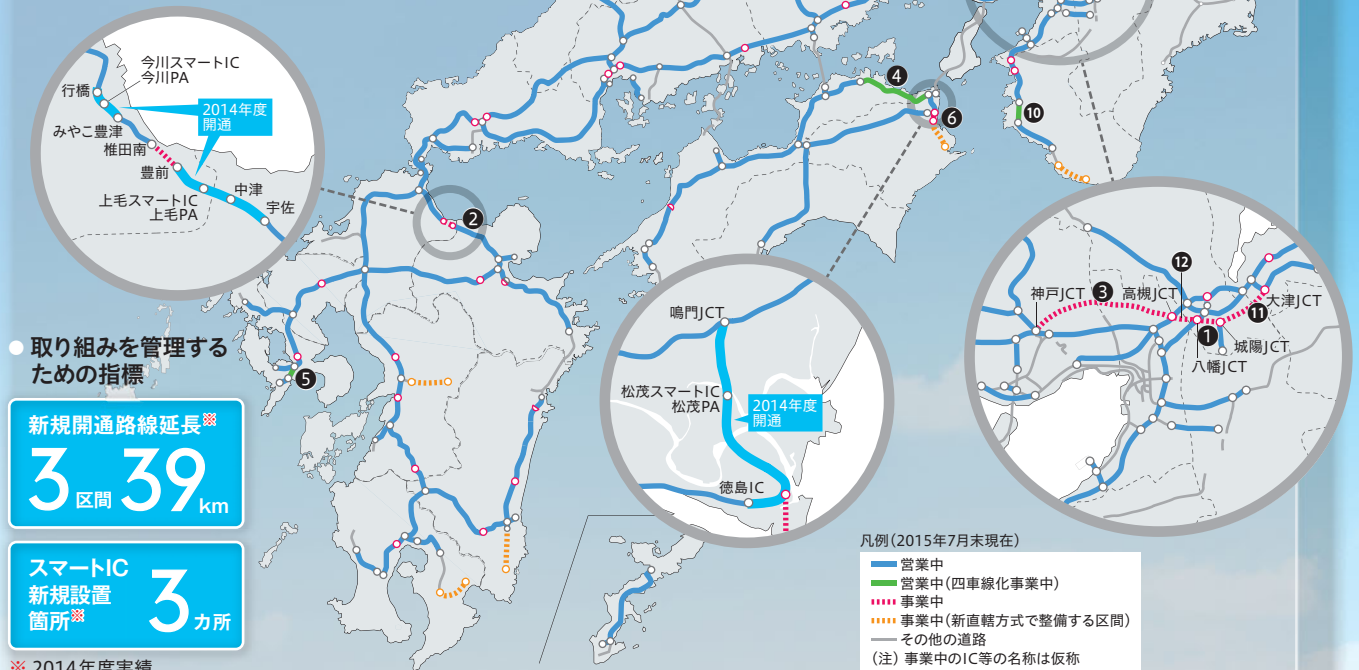
高速道路にアクセスできない地域をなくして、使いやすくしてほしい

道路沿線の皆さまからの期待

説明会等をしっかりと行い、生活環境や自然環境に配慮しながら工事をすすめてほしい

私たちの取り組み

各地で早期開通を目指して、地域と対話しながら整備促進



高速道路を身近に

未整備区間を整備し、高速道路が途絶している区間(ミッシングリンク)の解消を推進しています。

ネットワークの多重化

名神高速道路を多重化し、渋滞の抜本的解消と、災害時のネットワーク維持を実現します。

事業地域との共生

各関係機関や沿道地域の皆さまと協議を重ね、ご理解をいただきながら事業を進めています。



東九州道 行橋IC～みやこ豊津IC 開通式



東九州道 豊前IC～宇佐IC
開通記念マラソン大会



徳島道 鳴門JCT～徳島IC 開通パレード

高速道路を身近に

事業地域との共生

途絶している未整備区間(ミッシングリンク)を結び、高速道路の機能を高めます。

◆ 東九州道: 行橋IC～みやこ豊津IC、豊前IC～宇佐IC

東九州自動車道は、福岡県北九州市を起点として、大分・宮崎・鹿児島各県を結び、鹿児島市に至る延長約436kmの高速道路です。沿線では、企業誘致計画が進められており、地域産業の発展や雇用創出の促進が期待されます。なかでもアジアをリードする自動車の一大生産拠点をめざす北部九州では、循環型高速道路の完成が待望されています。また災害時の代替

ルート確保や緊急搬送など、暮らしの安全にも重要な役割を果たすものです。2014年12月に行橋IC～みやこ豊津IC(延長7.4km)、2015年3月に豊前IC～宇佐IC(延長21.1km)が開通し、合計で344kmが開通したことになります。

◆ 徳島道: 鳴門JCT～徳島IC

2015年3月に徳島自動車道の鳴門JCT～徳島ICが開通しました。当区間は南海トラフ地震など震度6強で津波浸水深が3～4mに達した場合でも、高速道路の道路機能を確保できる設計となっています。災害発生時の復旧作業や緊急輸送路、また防波堤や避難場所としての機能を有し、地域の防災力向上に貢献します。

今後の開通予定※1

区間	延長	年度
① 新名神 城陽JCT～八幡JCT	4km	2016年度
② 東九州道 椎田南～豊前※2	7km	
③ 新名神 高槻JCT～神戸JCT※3	40km	2018年度
④ 高松道 鳴門～高松市境(四車線化)	52km	
⑤ 長崎道 長崎芒塚～長崎多良見(四車線化)	8km	
⑥ 徳島道 徳島東～徳島JCT	4km	2019年度
⑦ 播磨道 播磨新宮～山崎JCT	12km	2020年度
⑧ 舞鶴若狭道 福知山～綾部(四車線化)	10km	
⑨ 舞鶴若狭道 綾部PA～舞鶴西(四車線化)	5km	
⑩ 湯浅御坊道路 御坊～有田(四車線化)	19km	2021年度
⑪ 新名神 大津JCT～城陽JCT	25km	2023年度
⑫ 新名神 八幡JCT～高槻JCT	10km	

(注) 事業中区間のIC・JCT名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく

※2 会社努力目標は2016年春

※3 会社努力目標は2016年度

スマートICの今後の設置予定※1

スマートIC名称	設置数	年度
夢前(中国道)、北熊本(九州道)、城南(九州道)	3カ所	2015年度
山之口SA(宮崎道)、由布岳PA(大分道)、門川南(東九州道)	3カ所	2016年度
木場(長崎道)、小城PA(長崎道)、福山SA(山陽道)、桜島SA(九州道)、沼田(山陽道)、別府湾(上り線)(大分道)	6カ所	2017年度
宝塚北※2(新名神)、和歌山南(阪和道)、人吉球磨(九州道)	3カ所	2018年度
国富(東九州道)、湯田PA(中国道)、中山(松山道)	3カ所	2019年度
新名神大津(新名神)	1カ所	2023年度

(注) スマートIC名称および未開通区間の道路名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく

※2 事業中の本線と同時供用

POINT 高速道路は、地域の皆さまの生活や観光産業等の活性化に貢献しています。

例えば、宍道JCT～斐川IC～出雲ICが開通した山陰自動車道では…

安全で安心できる暮らしへ

山陰自動車道は斐伊川の河川氾濫区域に含まれていないため、河川氾濫時の緊急輸送道路となるほか、原子力災害に備えた島根県広域避難計画で避難ルートに指定されています。また、松江市、雲南市から出雲市内への緊急搬送件数は、開通前に比べて約3倍に増加。傷病者の負担軽減に貢献しています。

観光産業が活性化されました

2013年には約800万人という過去最高の参拝者数を記録した出雲大社。観光バスや自家用車の多くが出雲ICを利用し、移動時間が短縮するとともに、周辺の混雑緩和に貢献しました。また出雲大社周辺には多くの観光施設があり、開通後は各観光施設間へのアクセスが向上し、周辺観光の促進につながりました。



ネットワークの多重化

事業地域との共生

日本の新たな大動脈として、新名神の2023年全線開通を目指しています。

これまで、日本の産業と社会を支えてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を格段に高めるべく、「未来につなぐ信頼の道」新名神高速道路の整備を進めています。

◆ 高槻JCT～神戸JCT

工事の最盛期を迎えています。

兵庫県域では、世界で初めてバタフライウェブを採用したエクストラードード橋(武庫川橋)の施工が行われております。

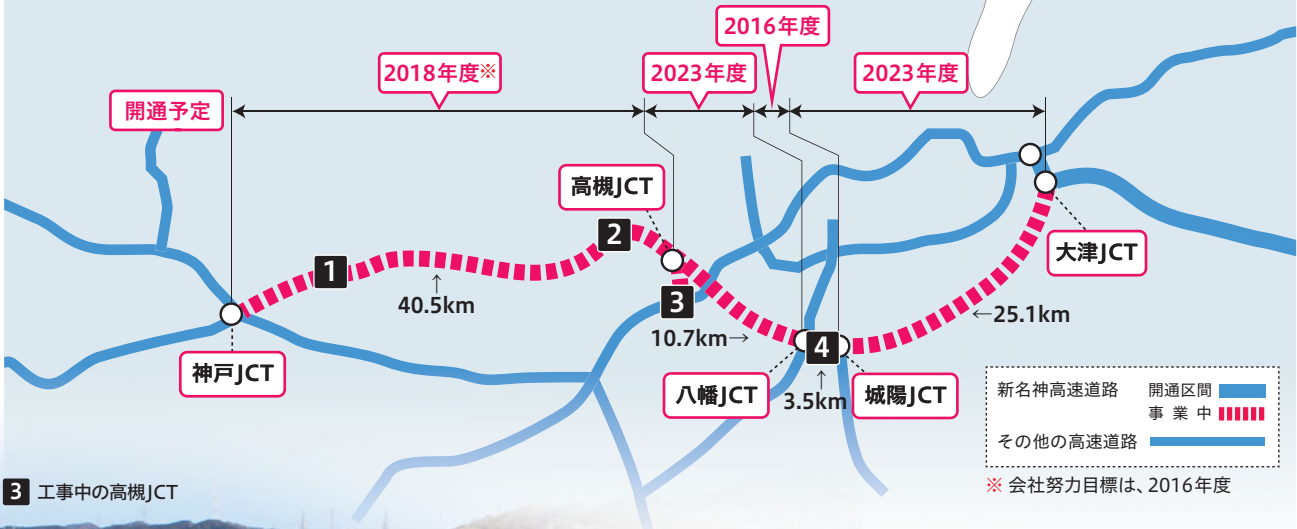
大阪府域に位置する、区間最長の箕面トンネル(上り線4,994m、下り線4,979m)においては、2015年5月末現在の掘削延長は、上り線2,539m、下り線2,756mです。



1 工事中の武庫川橋



2 工事中の箕面トンネル



3 工事中の高槻JCT



4 工事中の木津川橋

◆ 城陽JCT～八幡JCT

工事の最盛期を迎えています。
木津川橋の下部工につきましても、渇水期に河川の切り替え工事を行い、工事を実施しています。
一部、上部工工事にも着手しています。

◆ 大津JCT～城陽JCT・八幡JCT～高槻JCT

地元設計協議を順次実施しています。一部、用地取得に着手するなど、地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。



地元協議の様子(左:事業説明会、右:境界立会)

事業地域との共生

事業地域にある箆築用ヨシの生育環境の保全を図っています。

新名神高速道路の橋梁が横過する淀川河川敷「鶉殿ヨシ原」には、雅楽で演奏される箆築(ひちりき)の蘆舌(ろぜつ/吹き口に取り付ける薄片で西洋管楽器のリードに相当)に用いられる良質なヨシが採取されている箇所があります。

NEXCO西日本は植物学や地下水の専門家などから構成される検討会を設置し、ヨシの生育環境や生態に関する調査を実施し、知見を深めています。また、害草・害虫の駆除や保全を目的とした「ヨシ原焼き」を高速道路開通後も行えるよう、無人ヘリコプターなどを用いた調査を2014年2月に実施したほか、枯死の原因となる植物「カナムグラ」の除去を2014年3月から4月にかけて実施しました。

今後も、調査・試験を継続して実施するとともに、情報を随時発信し、十分な説明に努めていきます。



箆築(ひちりき)

工事が最盛期を迎えるなかで、現場見学会なども積極的に実施しています

新名神高速道路は日本の新たな大動脈として、2023年の全線開通を目指して現在全線で事業中です。このうち高槻JCT～神戸JCT間は2016年度の開通目標に向け、全区間で工事が最盛期を迎えています。昨年12月からは「なるほど! 高速道路発見」と題し、一般の方を対象とした工事現場の見学会を半年で3回開催しました。



新名神大阪西事務所 所長 兼澤 秀和

当事務所管内は高槻JCTから北摂の山間地域を主なルートとしているため、全体の建設状況が地域の皆さまの目に触れる機会が少ない現場なので、工事現場の見学者さまからは「工事規模の大きさに驚いた」「こんなに進んでいるのは知らなかった」「早く利用したい」といったお言葉をいただきます。

今後も、重大事故や巨大災害時の代替ルートとして、また通過交通の円滑化のためにも、一日でも早い開通を目指して関係者一同一丸となって取り組んでまいります。



検討会の様子

WEB掲載情報

事業評価委員会議事(2014年度)
有識者の皆さまに、第三者の立場から、事業中・開通後の高速道路について、ご意見をいただいています。

なるほど! 高速道路発見
一般の方を対象とした、高速道路の建設現場を公開する見学会の申し込みサイトです。

新名神高速道路 事業中区間の概要
各工事事務所が発行している広報誌などを掲載しています。